

はじめに

本県では、恵まれた自然条件と大消費地の中の産地という有利な立地条件を生かし、産出額が全国第6位の野菜をはじめ、米、麦、畜産、果実、花植木など多彩な農産物が生産されています。また、深谷ねぎや狭山茶はもとより、「彩の国黒豚」やなしの「彩玉」など全国に誇れる新たなブランド農産物も数多く育っています。

一方、我が国の食料自給率は40%であり、世界人口の増加や輸入農産物からの有害物質など食料事情が不安定な状況にある中で、県民に安全な食料を安定して供給することが不可欠です。

このような中、県では平成18年度に策定した埼玉県5か年計画「ゆとりとチャンスの埼玉プラン」に基づき、ゆとりある「田園の魅力」とチャンスに満ちた「都市の魅力」とを併せもった埼玉づくりを進めています。農業分野では、「高収益な農業経営体の育成」、「優良農地の保全」、「競争力のある産地の形成」、「地産地消と販路拡大の推進」などに取り組み、力強い埼玉農業の振興を進めています。

中でも「地産地消」については、現在「近いがうまい埼玉産」をキャッチフレーズに積極的に推進しています。農産物の宝庫でもある本県では、行事食や日常食として独自の食文化が形成され、地域の伝承料理が受け継がれています。県産農産物を使い地域の伝承料理を楽しんでいただくことは、食料自給率の向上にも結びつくものです。

県では、ふるさと埼玉の豊かな味を次代に伝え、継承すべき食生活技術を有する方々を「ふるさとの味伝承士」として平成5年度から認定しております。現在、280人の方々が、料理教室等の講師として消費者との交流や農産加工等による付加価値を高めた農業生産への助言など、地域社会の活性化とふるさと意識を醸成するための活動に積極的に取り組んでおります。

本年度は農業改良普及事業60周年にあたり、県内各地に伝わる伝承料理を「埼玉ふるさとの伝承料理集」としてまとめました。この冊子がふるさと埼玉を実感していただく一助になれば幸いです。

埼玉県農林部  
部長 関根 俊雄